

# 読者の頁

## 談話室

### 一つの提案

どの学会も財政難を訴えて居る様であるが、土木学会もその点では引けを取らない様である。ある友人に久し振りであつたら会費滞納でストップを食つたとのことだ。ストップの早いことはきめんの様である。そこで私は土木学会の財政をより豊かにする爲にもつと広告を取る様に学会は努力すべきではないかと思う。

例えば第35巻第3号を見よ。土木建築設計施工×建設と云つた広告が多くて土木用の機械器具の広告が少い。土木関係圖書の広告も限られたものがいつも出てゐる。土木工事をする實際を考えると非常に多種多様の機械器具材料を必要としてゐるし突発的な現場の事故などで特殊な機械などを急いで調達しなくてはならないことも多々ある。そう云う場合学会誌を見れば大体事足りる様に色々の広告を掲載して置くことはさして学会誌としての使命から外れてゐるとは考えられない。外國の土木雑誌を見ると勿論学会誌の行き方と異なる点はあると思うが広告が非常に多く又派手である。これからは紙質の向上も望めるのだから、学会誌も従來の様な地味な、味もそつけない広告ばかりを出さないでもつとスマートな広告を安く沢山出して行くべきであらう。日本の原始的土木工事を向上させる爲にも、もつと優秀な機械をどんどん使わせる様に助長

(46頁より)

質管理上これらの製造工場の検査方式として重要な問題である。

従來の方法は不便・不備の点が多かつたが、最近電気試験所で研究完成した測定器は大蔵省印刷庁研究所の依頼を受けたもので、特に紙を対象とし、従來の欠点を除いたもので巴川製紙所での現場実測を行い好成績を収めた。

これは移動しつつある非磁性体薄板状物質の厚さを連続的に測定することが出来るもので、電氣的連続厚み計といい、感度極めて大きく、1耗以下の範囲では

指導する様に努力して貰いたい。広告を單に財政補足と考へないで積極的意義を持たせて重点を置いてやることを望む。聞く所によると、論文の著者に掲載料の一部を負担させる案などが眞面目に考へられてゐるそうだが、全く能のない、且つ淋しいことではないか。土木学会は日本の土木界全体を引つ張つて行く氣概で活動して貰いたい。学会誌はサイン、コサイン丈に興味のある読者ばかりが読んでゐないことをくれぐれも忘れないで貰いたい。抽象的なこと許り云つてもつまらないから CIVIL ENGINEERING (1949年10月号) にどんな広告が出てゐるか主なものを拾つて見よう。

ベルトコンベヤー、抗打機、ブルドーザー、キャリーオール、トランジット、特殊布テープ、セメント、パイプ、パイプレンター、渦巻ポンプ、トレーシングペーパー、製図鉛筆、水道用具(バルブコック類) 試験器具。

(芋葉生)

### 欧文原稿を受付けよ

本学会誌(論文集を含む)は欧文を受付けぬ。これは近頃まことに遺憾且つ不思議なことである。土木学会は日本の土木工学の発展を助成しその成果を國の内外に報告すべき責務をもつた國內唯一の学会である。そもそも日本語は今も昔も國際的な学術語でないのである。戦前欧文原稿を受付けた土木学会が戦後4年にもなつて欧文原稿まかりならぬという考え方がどうして存在し得るのか。余談ながら、戦時中教壇で術語も何も英語を使わぬといつて威張つておられた大学教

精度1ミクロンで記録計を用いて記録できるから変化をあとからでも知ることが出来る。また電源は100V電灯線をそのまま用いることが出来る、その上真空管などの消耗品がなく構造も簡單で取扱容易である。

### 〇府縣土木部長異動

府縣庁名	氏名	前任地
大阪	広長 良一	千葉縣土木部長
千葉	田中 孝	長野縣土木部長
長野	長久保信夫	建設省技監室附

授もあつた様である。台湾大学の医学部で敗戦後台湾語で講義してみた(結局失敗した)のどこか似ている様に思われる。

曰く、優秀論文は欧文に翻訳して紹介する途があると。優秀論文であるかないかを土木学会が直ちに常に正しく判断できると土木学会の関係者は考えておられるのだろうか。曰く、提出者の英文がまずいのであるだろうと、本職の外人が書く様な英文はどの途日本人には出来ないこと、わかりさえすればよい。英文の巧拙は論文内容に直接関係がない。曰く、組版代が高いと、それなら次善策としてタイプ原稿を写真版にすればよい。和文組より却つて安くいく。

本文が有力な識者の眼にとまり。土木学会が会の本来の使命にかんがみて直ちに欧文原稿を受付ける様になることを願つてやまぬ。

(谷本勉之助)

会員であり、卒業と同時に会員に轉格され或は先輩の徳源により入会する機会に恵まれていると云えます。

現在の土木学会全会員の学歴別にみた統計がどんな数字を示すかは知りませんが、私の挙げた1例が会誌編集上、些少でも参考になれば幸です。

(1) この会誌が書架に飾られることを願うか、現場の事務机の上に乗せて持ち込まれて手垢によごれて多く読まれることを望むか。

(2) 会員が会誌を決定し、また、会誌が会員を決定するという推論と、大衆化要望へいかに応えるべきか。等……

最後に希望として掲載論文等に補足的註書がほしいと思います。読者の理解を援けること大と信じます。編集部の方が付けられるのが適当と思います。多少デイスカッションの役割も果し得るからです。

(米本 実)

随 想

土木学会の在り方について、特に会誌の内容については異常の関心が拂われている様です。このことは地方在住会員としては、会誌を通してのみ学会との繋りを保っている実状から、尤もなことと謂えましよう。

会誌の程度を高めるべきか、低くすべきか或は現状維持で進むかはなかなか難かしい問題だと思ひます。

現に私の勤めて居る土建会社に例をとつてみますにこの会社には土木関係技術者としては工業学校以上の学校で土木を専攻卒業した者が 18 名おります。

- 大学卒業者 3人 16.7%
- 専門卒業者 7人 38.9% (修業年限1年を修了したもの2名を含む)
- 工業卒業者 8人 44.4%

これを年令別、学歴別、土木学会会員有無についてみますと次の通りであります。

年 令	人員	学 歴			会 員 有 無		
		大学卒	専門卒	工業卒	大学卒	専門卒	工業卒
20才未満	2	0	0	2	0	0	0
20才~30才	8	1	4	3	1	2	0
30才~40才	5	2	1	2	2	0	0
40才~50才	1	0	0	1	0	0	0
50才~60才	2	0	2	0	0	2	0

この例の場合では、現に会員である者は7名(18名に対する割合 38.9%)で、然も大学、専門学校出身者に限られて居ります。

従来から大学、専門学校出身者は概ね在学中は学生

寄 書

路盤の支持力に関してアスファルト コンクリート舗装の厚サの直接決定法<sup>(1)</sup>

2'×2'×1'の函(soil box)に土壤を一定の水分を合ませて詰め、一定の重サの蟻で搗き固め、一定の固サにする。試料から水分が逃げない様パラフィン紙及び金属製蓋をして防ぐ。

先端にゴムの附けてある3種の試験頭(表-1)に荷重を各3分毎に毎回 10 lbs/sq. in づつの割合で加え、その度毎に沈下量を測る。沈下が 0.5" で試験を終了する。

表-1

直 径	面 積	円周, 面積比
2.7吋	5.8吋 <sup>2</sup>	1.47 P/A
4.1"	13.0	0.99
8.6"	58.0	0.46

路盤の上に 22"×22"、厚サが 2"、4" 及び 6" 等の各種の舗装体を載せて同じ方法で試験を行う。この時舗装板の周囲が持ちあがる事を防ぐ爲金具で型枠に固定する。

以上の試験から各種試験頭に付應力-歪曲線(stress strain curve)を画く。圖-1はある種の土壤について試験したものを示す。